

シンポジウム開催レポート(2023.3.18)

スマートヘルスケア協会(以下、当協会)が毎年、主催する「SHCAシンポジウム2023」を3/18(土)に開催いたしました。

本記事は、「SHCAシンポジウム2023」運営事務局として、開催後記として書き起こしたレポートとなります。今回提示したテーマは「薬局店頭での未病・予防対策」と銘打ち、キャッチコピーとして「薬局のチカラで地域のヒトの健康を守る」と題したシンポジウムでした。

参加された方も、都合がつかず参加できなかった方々も、ご一読願えれば幸いです。



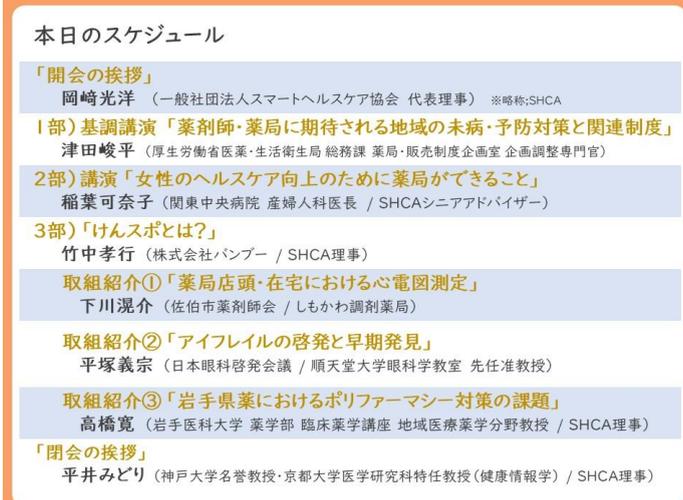
薬局のチカラで地域のヒトの健康を守る
薬局店頭での未病・予防対策

「SHCAシンポジウム 2023」

3/18(土) 15:00~17:30

主催：一般社団法人 スマートヘルスケア協会
後援：厚生労働省
(公社)日本薬剤師会
(一社)日本コミュニティーファーマシー協会
(一社)薬局支援協会
(公社)日本脳卒中協会

写真)イベント① シンポジウム題字



本日のスケジュール

「開会の挨拶」
岡崎光洋 (一般社団法人スマートヘルスケア協会 代表理事) ※略称:SHCA

1部) 基調講演「薬剤師・薬局に期待される地域の未病・予防対策と関連制度」
津田峻平 (厚生労働省医薬・生活衛生局 総務課 薬局・販売制度企画室 企画調整専門官)

2部) 講演「女性のヘルスケア向上のために薬局ができること」
稲葉可奈子 (関東中央病院 産婦人科医長 / SHCAシニアアドバイザー)

3部) 「けんスポとは？」
竹中孝行 (株式会社バンパー / SHCA理事)

取組紹介①「薬局店頭・在宅における心電図測定」
下川晃介 (佐伯市薬剤師会 / しもかわ調剤薬局)

取組紹介②「アイフレイルの啓発と早期発見」
平塚義宗 (日本眼科啓発会議 / 順天堂大学眼科学教室 先任准教授)

取組紹介③「岩手県薬におけるポリファーマシー対策の課題」
高橋寛 (岩手医科大学 薬学部 臨床薬学講座 地域医療薬学分野教授 / SHCA理事)

「閉会の挨拶」
平井みどり (神戸大学名誉教授・京都大学医学研究科特任教授(健康情報学) / SHCA理事)

写真)イベント② 本日のスケジュール

賛助会員



オムロンヘルスケア株式会社



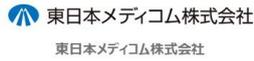
日本健保株式会社



ロシュ・ダイアグノスティクス (株)



アボット ダイアグノスティクス メディカル (株)



東日本メディコム株式会社



健工総合研究所
Kenko Research Corporation
(株) 健工総合研究所

※順不同、他1社

写真) イベント③ 当協会の賛助会員の皆さま

チラシ(PDF)

けんすぽ 薬局のチカラで
地域のヒトの健康を守る

SHCAシンポジウム 2023

— 薬局店頭での未病・予防対策 —

2023年3月18日(土)15:00~17:30
オンライン開催 (ZOOMウェビナー) [参加無料](#)

申し込み
下記URLもしくはQRコードよりお申し込みください。
(申込締切 2023年3月25日(水) 18:00)
<https://kyorin.com/jf/event230318/>

主催 一般社団法人スマートヘルスケア協会 (SHCA)
後援: 厚生労働省 (公益社団法人日本製薬協会 (一社) 日本コネクトエニティファーマシー協会 (一社) 薬業実業協会 (公益社) 日本薬師会)

基調講演
薬剤師・薬局に期待される地域の未病・予防対策と関連制度
厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 薬務・販売制度企画室 企画調整専門官 津田 峻平氏

講演
女性のヘルスケア向上のために薬局ができること
医薬中央病院 薬剤師長 石川心アリアイザー 稲葉 可奈子氏

薬局店頭でできる症例紹介
けんすぽとは?
株式会社けんすぽ(株) 代表取締役 竹中 孝行氏
① 薬局店頭、在宅における心電図測定
自治体連携による心電図の高齢者
下川 清介氏
② アイレールの啓発と早期発見
日本薬師会総務 総務課 総務課長 平塚 義典氏
③ 若年層に訴えるポリファーマシー対策の課題
東京理科大学 薬学 薬学専攻 薬学専攻学部長 薬学専攻学部長 高橋 寛正氏

問い合わせ: SHCA運営事務局 event@shca.or.jp

「SHCAシンポジウム2023」- 薬局店頭での未病・予防対策 -



開催の挨拶(当協会代表理事・岡崎光洋)

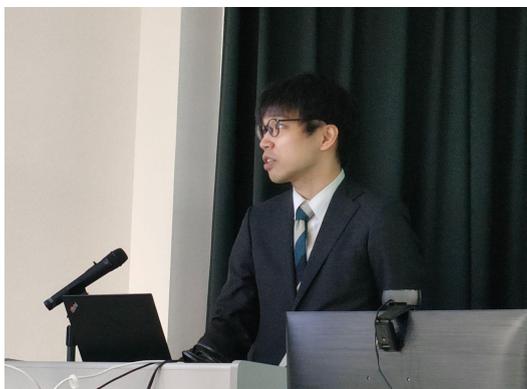
開会冒頭、岡崎光洋代表理事が主催者あいさつに立ち、以下のように述べました。

国民の健康増進への支援と気づきの場として薬局にかかる期待は、法制度の変化を見てもよく分かっていただけたと思います。当協会ではどのような取り組みが個人の健康増進に影響を与え、期待される効果を導き出せるかを問い続けると共に、多くの薬局が実施できるようにオペレーションのマニュアル化や教育コンテンツ作りを続けております。ぜひ皆様の共感と参加を得て薬局の価値創造を図っていきたいと思っております。

続いては基調講演です。

第1部 基調講演「**薬剤師・薬局に期待される地域の未病・予防対策と関連制度**」

津田峻平氏(厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 薬局・販売制度企画室 企画調整専門官)



津田様には、基調講演としてにご登壇願ひ、薬局に対する期待につき、ご講演願ひました。

健康サポート薬局やかかりつけ薬局といったような、処方箋を持たなくても住民がアクセスでき、栄養や生活習慣全般に関する相談を気軽に受けられる薬局が求められている。未病予防につながるセルフメディケーションの推進を行い、適切な受診勧奨につなげていく等の役割が期待される。また、かかりつけ医とも連携して在宅含めた地域包括ケアを推進していくことも引き続き重要となっている。

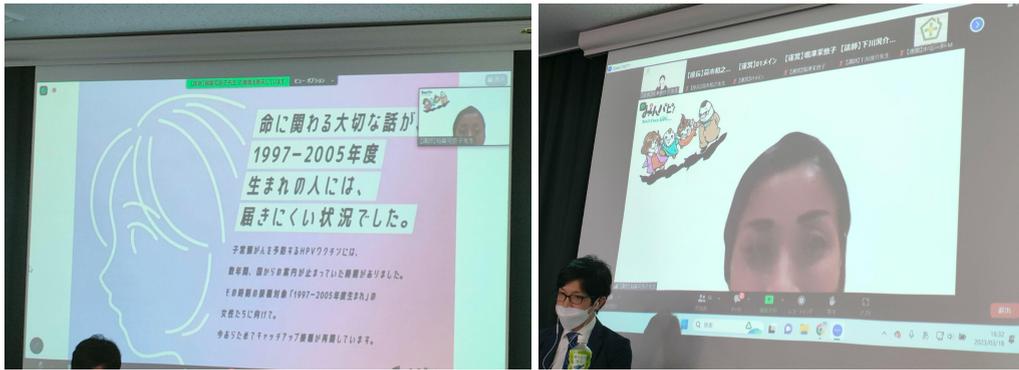
今後はICT技術を使って対人業務対物業務を効率化し、対人業務を強化していくことが必要。

薬剤師の方々には未病予防から看取りまでの地域の保険医療への ニーズに対応する能力を身につけ、是非積極的に関わっていただきたい。

基調講演に続いて、次は講演です。

第2部 講演「**女性のヘルスケア向上のために薬局ができること**」

稲葉可奈子先生(関東中央病院 産婦人科医長/SHCAシニアアドバイザー)



産婦人科専門医の立場から、女性の健康支援において薬局に期待するメッセージを、当協会シニアアドバイザーでもある稲葉可奈子先生より頂戴いたしました。

-
- ・女性には生理痛やPMS症状によりパフォーマンスが落ちてしまう期間が年間2ヶ月、一生涯で約7年間ある。
 - ・産婦人科で治療することで症状をなくすもしくは軽減することができる。
 - ・鎮痛剤を購入された方などに産婦人科で治療できますよとお声かけいただきたい。
 - ・また更年期症状によるパフォーマンス低下も問題。お困りの方がいたら是非受診勧奨を。
 - ・乳がんは検診、子宮頸がんはワクチン接種と検診をすることで予防、早期発見できる。
 - ・キャリアのためにも自分のためにもそして大切な人のためにも、元気だからこそのがん検診。ぜひ重要性を伝えていただきたい。
 - ・薬局というのは全く産婦人科とかに関わり関係がないいろんな方と接点があるので、そこでの啓発は非常に意義があり、最適の場ではないか。
-

基調講演、講演と続き、第3部は当協会が取り組む「けんスポ」のコンセプト紹介と、薬局店頭での未病・予防の3つの事例紹介をいたしました。

第3部 薬局店頭でできる取り組み紹介 (座長・当協会理事 竹中孝行)



冒頭、当協会理事の竹中孝行氏より、本シンポジウム参加の皆さまに向け、「けんスポ(正式名称:健康応援スポット)」のコンセプトにつき、説明をさせていただきました。

現在、準備をしているサービスは以下の4種類となります。

- ・検体測定サービス
- ・子宮頸がんの検診未受診者に対する対策サービス
- ・高齢者のフレイル対策サービス
- ・脳卒中・循環器対策サービス(心電図測定)

薬剤師のみならず、薬局内のスタッフ全員を巻き込んでの取組となるよう、薬局の方々向けにe-learning研修会を受講いただくことで、簡単に店頭導入できるような仕組みであることを、かいつまんで紹介いたしました。

ここからは薬局店頭での未病・予防の取組、事例紹介となります。

トップバッターは、大分県で当協会も事業をご一緒させていただいている下川滉介先生より、「脳卒中・循環器対策サービス(心電図測定)」にかかわる事例発表でした。

事例①「薬局店頭・在宅における心電図測定」

(下川滉介氏;佐伯市薬剤師会(大分県)／しもかわ調剤薬局)



下川滉介先生は、佐伯市薬剤師会の取り組みをご発表してくださいました。

- ・オムロンヘルスケア社の心電図付き血圧計(HCR-7800T)を用いての取組。
- ・在宅患者さんに心電図測定を行った結果、心房細動の可能性あり。
トレーシングレポートを用いて医療機関へ情報提供を行った一例について。
- ・佐伯市薬剤師会主催で開催した、心電図測定を中心とした健康フェア(2023/3/12)の様子を紹介。
- ・引き続き、健康フェアや健診勧奨をしていくことで地域活性化や健康増進に努めていきたい、とのこと。

続いての事例紹介は、今後、当協会でもすでに取り組みを進めている「フレイル」に関連するものとして、その中でも「アイフレイル」につき、日本眼科啓発会議の平塚義宗先生よりご講演いただきました。

眼にかかわる疾患の早期発見については、平塚先生をはじめ、日本眼科啓発会議の先生方と連携を密にとっていければと考え、登壇を願った次第です。

例②「アイフレイルの啓発と早期発見」



(平塚義宗氏; 日本眼科啓発会議/順天堂大学眼科教室 前任准教授)

平塚義宗先生からは、フレイルの中でも眼科領域のホットピックである「アイフレイル」に関する取組をご紹介いただきました。

- ・目の病気は初期症状を感じにくく、症状を感じて受診した時にはかなり進行しているケースが見られる。
- ・10個のチェックリストに答えることによって、2つ以上当てはまればアイフレイルの可能性があり、近くの眼科を受診勧奨していただきたい。
→参考)「アイフレイル自己チェック」はこちら
- ・一般の方は目の疾患の知識が少なく健診受診率も低い。
- ・医師より身近で相談しやすい薬剤師に、目の啓発を進めていただきたい。

事例紹介のトリとして、当協会理事でもある高橋寛先生より、病院の外で問題となっている「薬局店頭でのポリファーマシー対策」の岩手県薬で取り組む事例紹介とその中での課題につき、講演いただきました。

事例③「薬剤師会によるポリファーマシー対策」

(高橋寛氏; 岩手医科大学 薬学部 臨床薬学講座 地域医療薬学分野教授/当協会理事)



高橋寛先生からは、岩手県薬剤師会で行っていただいた「ポリファーマシー対策」につき、ご講演いただきました。

- ・レセプト分析によるポリファーマシーの抽出結果を、医療機関や薬局と情報共有をする方法がないことが問題
- ・知識や患者さんとのコミュニケーション、トレーシングレポート記載における薬剤師のスキル不足
- ・患者さんが話しやすい環境を作りその聞き取った情報を元に医師へ処方提案していくことが必要

本シンポジウムの締めくくりにあたって、当協会理事・平井みどり先生からもコメントをいただきました。

開催後記

本イベント開催時に掲げたテーマ「薬局店頭での未病・予防対策」を進めるにあたり、当協会が持つ4サービスの事例紹介にとどまらず、2.5時間と限られた時間の中で、以下を実現したく、ご登壇願った次第です。

- ①「未病・予防」に関して、監督省庁(厚労省)が考える仕組みとその視点解説
- ② 各疾患群(※)の専門医の先生方から、薬局に対する期待
※今回は産婦人科医・稲葉先生、眼科医・平塚先生
- ③ 当協会外で立ち上がる未病・予防の取組の紹介

各先生方にご発表いただいた内容を振り返ると、翌日の業務から取り入れられる内容が盛り込まれており、シンポジウム運営側としても大変有意義な時間でした。

当協会としまして、医療の専門家がおり、様々な年代の方々が訪れる薬局という場所の利点を生かした「未病・予防対策」につき、今後も専門医の先生方、ならびに各業界のパートナー企業の皆さまを巻き込みつつ、サービス内容を拡充し取り組んで参る所存です。

今後のイベント開催にもご期待ください。

以上